

# 食文化と野生植物とのつながりに関する意識調査

宮内〈能勢〉かおり (株式会社 緑生研究所)

## The consciousness survey of a relationship between food culture and wild plants

*Kaori Nose-MIYAUCHI*, Ryokusei Research Institute

### 1. はじめに

日本では、野生植物を食事等に用いる習慣がある。主な例としては、春の行楽となっている山菜採りや筍掘り、柏餅などのように葉に包まれた食べ物、ドクダミ等に代表される野草茶などが挙げられる。これは我が国の食文化と野生植物が密接な関係にあることの証しであると考えられる。

このような食文化は日本に限ったことではない。私は2008年秋から約1年間英国に滞在した。その際、食べられる野生植物の生態や調理方法等を中心に紹介した『Food for Free』(Richard Mabey, 1972) という書籍に出会った。本書は、英国で40年以上前に出版され、これまでに50万部以上も販売されたロングセラーである。

英国はガーデニングが盛んな土地柄であり、様々な料理にハーブを利用するなど、植物との関わりは深い。また、多くのスーパーでは、Nettle (セイヨウイラクサ) に代表される野草茶が、紅茶と共に棚に陳列されていた。以上のことから、野生植物を食事等に利用することも、英国では一般的なものなのではないかと考えた。しかし、在英期間中に、自然に生育する植物が現地の人々の食生活に活用されている様子を実際に見ることは、ほとんどなかった。

このような状況から、野生植物を食事等に用いる習慣の有無や意識の違いに着目するに至った。そこで、在英中に在籍した University of Exeter 語学コースで、地域ごとの傾向を明らかにすることを目的とした、食文化と野生植物とのつながりに関する意識調査を実施した。この報告はその際に作成したレポートを元にして

### 2. 調査方法

アンケートは2009年5月24日から30日までの7日間、University of Exeter の学生、教職員のほか、近隣住民や友人・知人等を対象に実施した。その結果、68名から回答が得られた。

アンケートでは、主に野生植物を食事等に用いる習慣や経験の有無に関する9項目の設問について回答を求めた。表1にアンケート回答者の内訳を示した。

アフリカおよび北アメリカの回答者は少数であったことから、この報告ではヨーロッパ、東アジアおよび中東出身者の回答をもとに、各地域の傾向が明確であった設問を中心に述べることにする。

### 3. 野生植物を食事等に用いる習慣の有無

設問2 “Are there any customs to use wild plants for eating, drinking or cooking in your native country?” で、野生植物を食事等に用いる習慣の有無を尋ねたところ、全体で6割以上が出身国にこの習慣が「ある」と回答した(図1)。地域別にみると(図2)、東アジア出身者の8割近くがこの習慣が「ある」と回答していた。これは、同じ回答が約5割にとどまったヨーロッパや中東の出身者と比べると際立って多い。なお、「ない」あるいは「知らない」と回答していた中東出身者はいずれも男性であり、性別による認識の違いがあるものとみられる。

全体の結果を年代別にみると(図3)、習慣が「ある」と回答したのは24歳以下の世代で約55%、25歳から39歳で約60%、40歳から54歳で80%、55歳以上で100%であった。すなわち、年齢層が高いほどこの習慣を認識していた。

表1 アンケート回答者の内訳

地域	回答数	性別		年齢				出身国
		男性	女性	-24	25-39	40-54	55+	
ヨーロッパ (ロシア含む)	27	14	13	14	4	7	2	英国、イタリア、フランス、ロシア
東アジア	24	9	15	14	6	3	1	中国、日本、韓国
中東	13	9	4	5	8	0	0	サウジアラビア、イラク、クウェート、レバノン
アフリカ	3	3	0	3	0	0	0	リビア、モロッコ、ナイジェリア
北アメリカ	1	0	1	1	0	0	0	カナダ
合計	68	35	33	37	18	10	3	

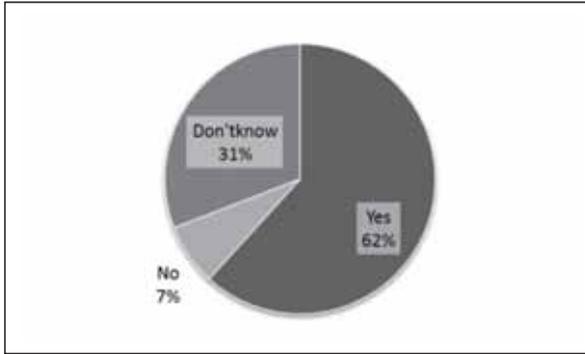


図1 Are there any customs to use wild plants for eating, drinking or cooking in your native country? (全体)

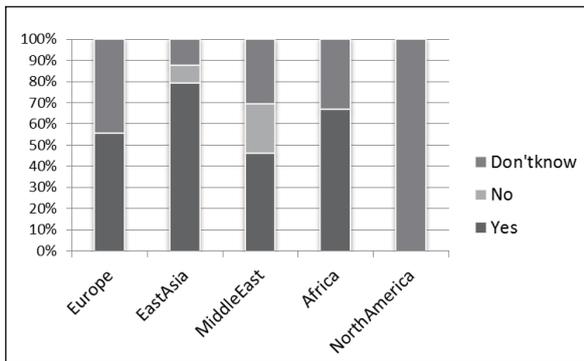


図2 Are there any customs to use wild plants for eating, drinking or cooking in your native country? (地域別)

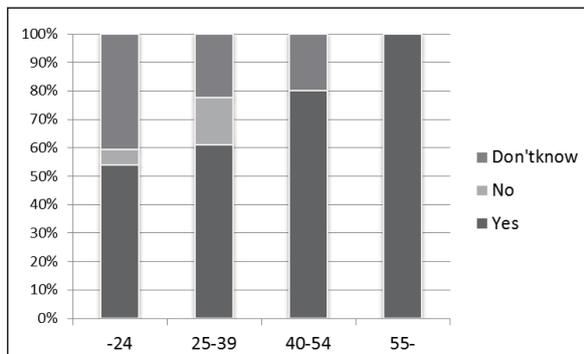


図3 Are there any customs to use wild plants for eating, drinking or cooking in your native country? (年代別)

#### 4. 野生植物の用途

設問3 “How do people use wild plants?”で食事等における野生植物の用途を尋ねた結果(図4)、出身国にこの習慣があると答えた人の大半は、用途として「食べ物」を挙げていた。地域別にみると(図5)、東アジア出身者の3~4割程度は「食べ物の包装」、「食器」、「調理器具」といった、飲食に至るまでの利用も挙げており、用途の幅広さがみられた。

#### 5. 野生植物を食事等に用いる経験の有無

設問1 “Have you ever used wild plants for eating, drinking, or cooking?”で、野生植物を食事等に用いる経験の有無を尋ねた結果(図6)、経験が「一度もない」と回答した人は全体の約16%であった。地域別にみると(図7)、経験がない人が際立って多くみられた地域は、回答者が少ない北アメリカを除くとヨーロッパであり、25%以上が「一度もない」と回答した。一方、東アジアおよび中東では1割程度であった。

#### 6. 野生植物を食事等に用いる目的

設問7 “What are your aims to do the above use?”で、野生植物を食生活に用いる目的を尋ねた結果を地域別にみると(図8)、ヨーロッパ出身者の回答では、半数以上が「おいしいものを飲食するため」と回答した。一方、東アジア出身者は特定の回答が突出することはなく、「おいしいものを飲食するため」のほか、伝統や習慣を意識した「伝統行事に用いるため」、「習慣を保つため」や、健康を意識した「健康を保つため」、「病気治療のため」といった回答も数多く寄せられており、目的の幅広さをうかがうこ

とができた。

### 7. 野生植物を食事等に用いることに対する印象

設問4 “What are your impressions about the above use?” で、野生植物を食生活に用いることに対する印象を尋ねたところ、全体では「伝統的」、「季節的」、「健康的」といった回答が多数みられた (図9)。

ヨーロッパ、東アジアおよび中東の各地域の特徴が表れた項目を抽出すると (図10)、いずれの地域も「伝統的」、「健康的」を挙げた回答者が多かった。また、東アジア出身者の半数以上は「季節的」と回答したが、他の地域ではヨーロッパで3割強、中東で1割弱であり、東アジアでは季節感を感じさせるものとして捉えている傾向がみられた。また、ヨーロッパ出身者の4割以上が回答した「環境に優しい」は、他の地域の回答者はごくわずかであった。

### 8. 食事等に用いる野生植物の入手方法

設問8 “How do you get these plants?” で野生植物の入手方法を尋ねた結果 (図11)、ヨーロッパ出身者は「自分で採取する」と「店や人から購入する」がほぼ半数ずつ、中東出身者は大半が「店や人から購入する」と回答しており、「人からもらう」はごくわずかであった。一方、東アジア出身者は3分の1近くが「人からもらう」と回答しており、そのいずれも日本人によるものであった。このことにより、日本では山菜等の野生植物のおすそ分けが一般的に行われているものの、他の国では少数派であることがうかがえる。

### 9. 地域ごとの傾向

以上の調査結果から、ヨーロッパ、東アジアおよび中東の地域ごとの傾向を以下に記す。

#### 1) ヨーロッパ

- ・ 回答者の約半数は、野生植物を食事等に利用する習慣があると答えている。
- ・ 野生植物を食事等に利用する用途は、飲食である。

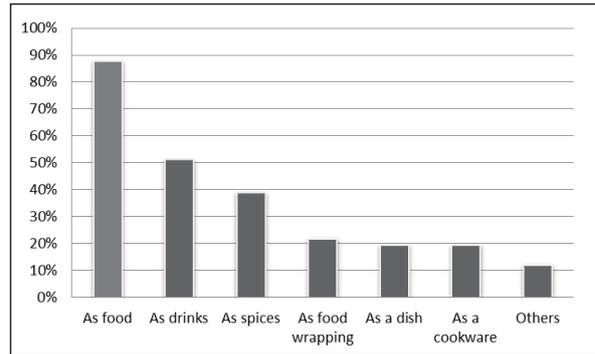


図4 How do people use wild plants? (複数回答; 全体)

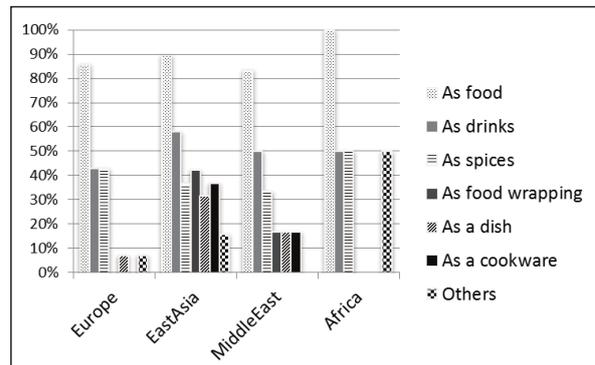


図5 How do people use wild plants? (複数回答; 地域別)

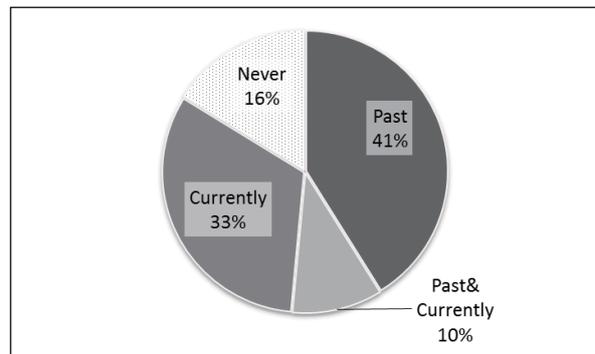


図6 Have you ever used wild plants for eating, drinking, or cooking? (全体)

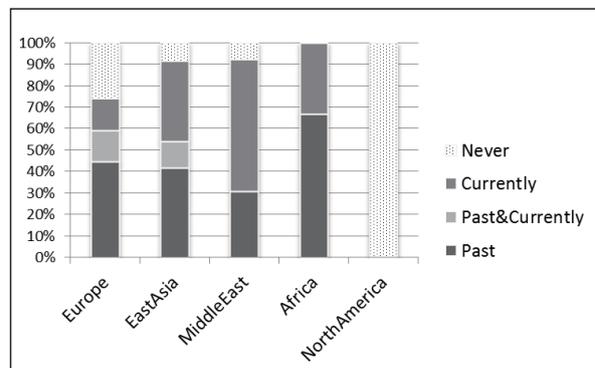


図7 Have you ever used wild plants for eating, drinking, or cooking? (地域別)

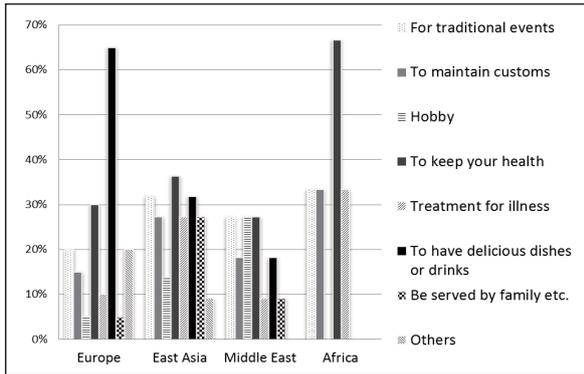


図8 What are your aims to do the above use? (複数回答; 地域別)

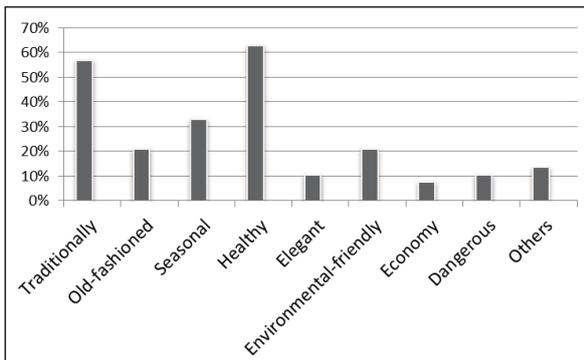


図9 What are your impressions about the above use? (複数回答; 全体)

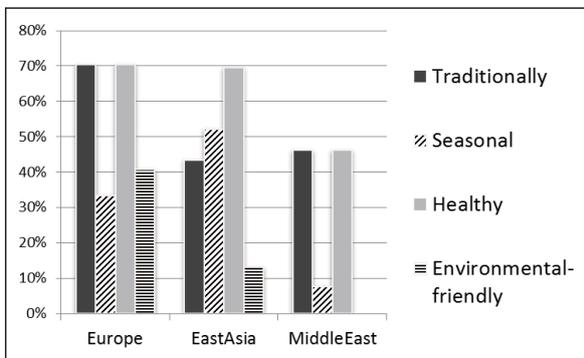


図10 What are your impressions about the above use? (複数回答の一部; 地域別)

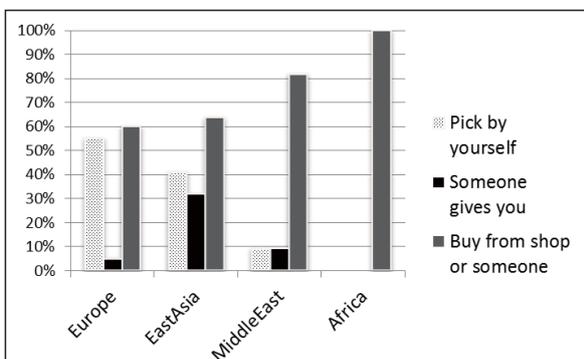


図11 How do you get these plants? (複数回答; 地域別)

- ・回答者の4分の1以上は、野生植物を食事等に利用したことがない。
- ・野生植物を食事等に利用する主な目的は、おいしいものを飲食することである。
- ・野生植物を食事等に利用することについて、7割近くの回答者は伝統的あるいは健康的な、4割以上の回答者は環境にやさしいイメージを持っている。
- ・利用する野生植物の入手方法は、自分で採取もしくは購入と回答した人が多かった。

## 2) 東アジア

- ・回答者の8割近くが、野生植物を食事等に利用する習慣があると答えている。
- ・野生植物を食事等に利用する用途は、飲食のほか、回答者の3~4割は調理関連の用途も挙げている。
- ・野生植物を食事等に利用したことがない回答者は、1割程度である。
- ・野生植物を食事等に利用する目的は、おいしいものを飲食するだけでなく、伝統や習慣を守ることや健康への配慮も含まれており、多岐にわたっている。
- ・野生植物を食事等に利用することについて、7割近くの回答者は健康的な、半数近くは季節的な、4割近くは伝統的な印象を持っている。
- ・利用する野生植物の入手方法は、自分で採取もしくは購入のほか、回答者の3分の1近くはおすそ分けであった。

## 3) 中東

- ・回答者の約半数が、野生植物を食事等に利用する習慣があると答えている。
- ・野生植物を食事等に利用する主な用途は飲食だが、回答者の2割弱は調理関連の用途も挙げている。
- ・野生植物を食事等に利用したことがない回答者は、1割程度である。
- ・野生植物を食事等に利用する目的は、伝統を守ることや健康への配慮を挙げた回答者が多い。
- ・野生植物を食事等に利用することについて、半数弱の回答者は伝統的あるいは健康的な印象を持っている。

- ・ 利用する野生植物の入手方法は、購入と回答した人が多かった。

## 10. まとめ

以上の調査結果から、東アジアでは野生植物を食事等に利用していると答えている人が多いこと、多彩な用途や目的で野生植物を利用していることが傾向として表れた。したがって、食文化と野生植物のつながりが深いものとみられる。一方、ヨーロッパと中東では食生活とのつながりがみられるものの、その目的は限定的であり、東アジアほど一般的ではないものと推察される。

この調査では興味深い傾向がみられたが、調査対象の多くは留学生であり、年代や経済状況に偏りがあることや、調査対象者の数が不十分であったことが課題である。今後は、同様の調査を継続しサンプル数を増やすとともに、各地域の相違点をもたらした背景についても検証し、全容を明らかにしていきたい。

---

### 参考文献

Richard Mabey, 1972. Food for Free. Harper Collins Publishers. London.